

第2回 南九州市議会議員定数等調査特別委員会 会議録

令和4年4月14日(木)

委員会室

(開会 10:00)

1 南九州市議会議員定数等について

○西委員長 南九州市議会議員定数等調査特別委員会を開会してよろしいでしょうか。

それでは、早速、開会いたします。まず、1番目に南九州市議会議員定数等についてということで掲げてございます。このことについて別紙もございますので、事務局のほうから説明を先にさせていただきたいと思います。

○川崎書記 会次第のほかに資料をお配りしております。議員懇談会、議員活性化についてという形で、令和3年10月15日に開催されたものの、今回の特別委員会に関係するところの抜粋になりますけど、そこで常任委員会の構成見直し、あと予算特別委員会の設置、議員定数の見直し、議員報酬の見直しという形で、その時に議員の方から意見等ありましたので、そちらのほうを掲載しております。これも参考の上で、今後、委員会を進める上で意見等を出していただければと思いますので御確認願いたいと思います。以上です。

○西委員長 今、事務局からも説明がありましたが、昨年10月15日の資料をここに書いてございます。まず再確認という意味で見ていただければというふうに思います。常任委員会も書いてございますが、予算特別委員会とか、その下から2段目のところに議員定数の見直しというところがございます。ここで必要性を感じるという方が11名ということであります。そして必要性を感じないという方が6名、どちらとも言えないという方が1名ということで、これはもう先ほど言いました昨年10月の時点での考え方をいただいたところがございます。その下のところに公選法が改正されて、もはや町議会でも選挙の公費負担が始まってきた。議員定数を減らすならば、それを財源として公費負担を考えて良いと思う。個人的な経験だが、初選挙の際には費用に大変苦労したという意見もあったようでございます。ここについてはこういう意見。それと関連があるんですが、議員報酬の見直しというところで、議員報酬の見直しについては必要性を感じる方が5名、必要性を感じない方が8名、どちらとも言えないということで6名ということがございます。ここについては下のほうにもいろいろ書いてございますが、このところをもう1回読んでみたいと思います。円単位で領収書をウェブにアップすることを条件に一定の政務活動費を認めるべきだと思う。例えば、川辺地域の議員が中心となっていく市政報告会では、金銭的な部分が大きなネックとなり、川辺文化会館のホール使用を断念した経緯がある。現在の個人研修費の負担金、福岡想定については、コロナ禍以前より年度末に予算が余り、特定の議員が2回以上行っているのが常であった。現状の福岡出張をなくして、議員20名で割って政務活動費としたほうが良いと思うという意見もあったようでございます。

本日は特別委員会ですので、ここを含めてこの2問について協議をしていただければと思

います。まず議員定数の見直しのところで、1番右側に今後、議員アンケートを取り検討するというございですが、できましたら今日は2回目の特別委員会です。現時点での皆さん方の御意見を聞いたほうが早いんじゃないかと思います。言いたい人だけ言うんじゃないくて、できれば現状でどうなのかというのを聞きたいと思うんですが、これについては皆さんどうでしょうか。いいですか。

【(「はい」という声あり)】

○西委員長 できましたら、例えば1番の方から、現状で僕は今こういうほうがいいと。今ここにもありますように必要性を感じるとか、感じないとか、いろいろ御意見がありますので、そこらを議席番号の1番の方から座ったままで結構ですので、御意見をいただければと思います。

○西山委員 1番、自分は必要性を感じないです。今でも、この前みたいな論戦があったときには、もうぎりぎりでのこのこうあるんですが、これが少なくなればさらにその辺のところがわかりづらくなると思いますので、私はできれば必要性を感じないです。

○取違委員 やはり議員定数を減らすと、市民のほうからもこの定数について、どうなのというのは最近聞いております。聞こえてきます。やはり減らすに当たっても、1番上にありますが常任委員の構成というのも考えていかななくてはならないと、若干ではあるけどその構成ができる範囲で減らしていくことも必要かなというふうに考えております。私は1番のほうです。

○上赤委員 私は今近隣の状況等で、例えば指宿、南さつま、この辺の状況等も今、人口等を考慮したとき18かなと、枕崎は14ですか。その辺の近隣の状況とか、これから人口減少等の今のこの動きの中で、やはりその辺の適正な人数というのがあると思いますので、そういうところまで加味していけば、減らす方向の必要性の見直しが必要じゃないかと考えています。

○大倉野(由)委員 基本的に定数は減らさないほうがいいと。なぜかというと確かにこの人口減少の問題はあります。財政上の問題もと思うんですけども、やはりこの市政全般への視点で、やはりこの議会が様々な問題が論議を可能にするという点ではもっともっとそういった意味ではいろんな意見があってもいいわけで、特にこのコロナの中でも多様性が求められる時代にもなっておりますので、現在の現状の願わくばというか、多いほうがいいわけですけども、現状は崩さないほうがいいというふうに思います。

○米満委員 前回もこの定数減について見送った経緯があるわけですけども、今、上赤議員が言いましたように、やはり近隣の状況を見て、やはり南九州市が本当に20名でいいだろうかということもあります。私としてはやはり減らせればいいというものではないですけども、ある程度の減をしてもいいんじゃないかなあということで、必要性を感じるということで1番にしたいと。

○大倉野(忠)委員 基本的に考え方は前回平成30年の特別委員会のとときと考え方は変わっておりませんが、その時もやはり定数を減らすということは議会機能を自ら縮小させるということが私は1番印象にあるわけです。だから前回は20名ということで、現状維持ということでしたけれども、その当時からすれば当然人口も減っておりますので、ある程度人口2千人に対して1人という考え方もある程度は尊重しないといけないのかなと考えてはおりますけ

れども、そういったことでいえば人数を減らすことで当然委員会の構成等もまた考えていかなければならないということで、数字を申し上げればもう 18 名がいいのかなと思いますが、ただ、減らす、増やす、あるいは現状維持、この定数を決めることにおいて、この議会だけで自分たちのことで、前回もこういう意見があったんですけども、自分たちのことをただ自分たちだけで決めていいのかと。やはり市民のアンケートをとるなりとか、意見を聞いて決めていったほうがいいんじゃないかなという思いはありますけれども、私の考えとしては今申し上げたことでございます。以上です。

○**鮫島委員** 私は議員定数の見直しは必要性を感じないということでございます。やはり、狭き門になるんじゃないかなということで、若い人、あるいは女性の方々が入りやすい。だったら今の現状のままでいいんじゃないかなというふうに感じています。以上。

○**日置委員** 私は結論から言うと議員定数を減らすべき。現状では。もちろん皆さんの意見聞いて変わるかもしれませんが、現状では減らすべき、具体的に言うと 16 ないし 18 だと考えています。理由としては人口減少に伴って致し方ない部分もあるのではないかと考えます。ただ前提条件として私は 2 つあると思っていて、多くの方が出やすい環境を整えるための議論というのを同時にしていただかないといけないだろうと。福岡県飯塚市議会で定数を 4 減らすという条例が通った後に、陳情が出て、請願だったかな、結局、議員定数を元に戻したということがつい最近ありました。これは飯塚という町が、ちっちゃい町がいろいろ合併して広くなって、合併後どんどん議員減らしていったって、少数の意見が通らないんじゃないかという市民の方の声が実際に議会に上がってきて変わったというケースなんです。うちも近いような状況な気もしていて、大前提として減らすのであれば、多様性を確保するために多くの方が出やすい、金銭的な状況もそうですし、社会的な環境もそうですし、これらを整えるための努力をいっそう行うということと、あと市民の意思というものをしっかりと議会として確認する手続きか何かをとるということができるのであれば 16 ないし 18。議会が多数決をすることでこそ、少数派の方が大切になってくる場所だと思うので、そのことを全体共有できるなら減らしてもいいのかなと思っています。以上です。

○**川畑委員** 私は今現状でという形でと考えていますけれども、ただし、近隣の市を考えたとき、それから人口的なことを考えたときに、やはり減らす方向で検討は必要だろうと思います。今のままでずっといいんだということではないというふうには思っています。ただし、市民の声というのは、市民はやはり私たちの声が届かない。そして我々の声をもっとという形の意見がありますので、その辺のところを考えたときには、今がもうベスト、現状かなという形のものが考えられます。ですから、私は現状でということを考えています。以上です。

○**内園副委員** 私も現状のままでいいという思いです。その思いというのは曾於市も人口が 3 万 3,312 名。南九州市も 3 万 3,118 名ということで、どちらとも 20 名という感じなんですよね。指宿が 3 万 9 千ぐらいなんですけど 18 名ということにはなっていますが、それと誰かもさっき言われたと思うんですけども、この議員定数を下げていくということは、議会制民主主義とか、民意の反映とか、そういう意味でちょっと落ちてしまうんじゃないかなという考えと、どうしても減少しなければならないその理由というのがちょっと見つからないことと、あとは大体人口に対して 2 万人以上が 26 人というふうな基準みたいなものもあるようすけ

ど、それは改正されたということで、今は通用しないのかもしれませんが、やはり現状で。それと1人の議員のエリアが人口を減らすと広がるので、なかなか市民の声を、今も市民の声をと言いますけど、市民の声を拾えなくなるのと、やっぱり、自分のエリアが少ないところでしっかりと市民の声を聞いたほうが、その代表として市民の声を議会に上げていくことができるのではないかという考えから、現状でいいと思います。

○西委員長 今度は私11番の西ですが、私の考え方については今皆さん方の意見も聞きながら、また自分の活動の中で、議員のなり手がいないというのが1番の僕は悩みです。自分たちの地区公民館管内とか、そういうところで声をかけるんです。できれば若い人に出てほしいという思いで声をかけるんですが、なかなか俺が頑張ろうという若い人がいらっしやらない。これが非常に僕は頭が痛いところです。そういう意味でいくと先ほど意見がありました市民の考え方のアンケートというのでもいいのかなあと感じました。ただ減らしてもいいんですけども、委員会構成なんかも考えながら、やっぱりこの中で意見を出しながら進んでいけたらと思いますが、そういう意味でいくと、僕は今のところどちらとも言えないという考え方のほうでお願いしたいと思います。以上です。

○今吉委員 私は前回の改選時も2名減ということで18名に賛成したわけですけども、あれからまた今度の改選、今回は前回も現状のまま、今回も現状のままというわけにはいかないと私は感じております。よって私は2名減で見直しをする必要があると思います。以上です。

○菊永委員 今までそれぞれいろいろな皆さんのお話を聞いていますと、前回の特別委員会では20名という形でありました。なぜならば旧町からのながれからいきますと、各町にそれぞれ20数名議員がいた。合併になって、このとき第1回の選挙のときには、区割という形で8名ずつ24名という形でありました。また、改選があるときにそれぞれ2名ずつ、2名ずつという形で減をしてきてきた状況等があります。その観点から平成30年度の特別委員会の中で決定を見たのが、次の世代にということで現状のままで今回はいいのではないかという形で、さきの特別委員会では20ということでありました。いろいろと人口減少等を考えてみれば、今3万3千3百いくらかという形であります。そういう人口減が著明的に出てきている中で、地域は広い、だけでも現状を見てみれば人口は減少しているということ等を勘案してみれば、どうしてもさっきの意見等も出ているようですけれども、近隣市がしているからどうということじゃなくて、ある程度の議会の方向性として2名減という形の中でいけば、市民の方々にも当然それについては受け入れてくれるんじゃないかなあとは理解をしております。

今、なり手がいないというような話も出ましたけれども、これは報酬等の関係等もあるかと思えます。議員で生活ができるというようなそういうことでは、今の中ではないというようなことでありますので、できれば議員定数等の特別委員会ということでもありますので、やっぱりできればもう報酬等についても一緒になって考えていけばいいのかなというふうに感じております。なぜならば減った報酬の分を、それぞれ議員に割当ててというような方向性も、簡単に言ったらそういうこともできるんじゃないかなというふうには感じていますが、今の現状等を市民の方々のいろいろな声を聞いてみますと、できればもう18というのが1番、今のところでは1番いい定数等ではないかなあというふうには私は感じております。以上です。

○蔵元委員 減らさざるを得ないというのが今の思いです。やはり予算というのがあって、その中の議会費というのがあるので、今の現状で人口がどんどん減っていく中で、今そんな減っているわけじゃないんですけど、今後、予算というのはある程度縮小されていくというふうに考えた場合に、その部分の議会費がそのままというのにはあり得ないので、やっぱりそれはそれなりに減らす方向には行くと思います。なので減らさざるを得ないということです。あと今回必ずしないといけないと思っているのは、庁舎を造るのに今職員とか、特別委員会なんかで言うのは、今の規模で考えたら無駄が出るというのは我々も言っていることなので、議会に関しても今の数で設計をして全部造ってしまうと、多分、10年後、20年後には半分とは言わないけど、相当無駄なスペースになってしまう可能性があるんで、やはり先を見た部分でいくと、今である程度数を減らしているのは合理的な考え方なのかなと。ちょっとそのいろいろ市民の声とか、そういうとはちょっと違いますけれど、現実的な部分はそうかなというふうに思っています。16ぐらいになったほうがいいかなというふうに思っています。

○竹迫委員 私はやっぱり2名減かなと。18というふうに思っております。18だったら何とか3つの委員会なり、2つにすることもできるんじゃないかなと思います。それと定数を減らして、その分報酬を上げると。これはもうやるべきことではないと私は思う。報酬を上げるためにですね。定数を減らそうと。減った分だけ上げましょうという。これはもう今のこういうご時世ではやるべきでないと私は思っております。以上です。

○浜田委員 まず市民のための財源をどのように効率よく配置し、市民が幸せになるための議論をするわけでありますから、その財源そのものは税金であります。人様が苦労して稼いだ金の中から税金という血税で運営されていくわけでありますから、となれば費用対効果を絶対考えなければならぬと思う。その仕事をする議員の立場で、報酬の、定数のという前にまず考えなければならぬのは、できるだけ財政の少ない効率よい方向性が、これを市民が望むはずでありますから、私の前の人が言いましたけど、定数は原資だから、そのいた分を残った人で分けましょうという、こんな山賊がするようなことだけは避けてもらいたい。私はこの市議会から前発言しましたが去っていく者の1人として言いたいのは、市民のための政治を真剣に考えて、おのれの生活のことは2の次に考えていただきたい。さらに議会をうまく運営するには定数というものもありますから、3委員会、1委員会6名、なんとかやってくるようでありますから、サブ、ロク、ジュウハチ、これは常識上、議会運営上、18という数字は妥当かなという考えを持っております。1番重要なのは限られた財源の中で、人口減、増ではありませんから、現行が減になる方向にあるのに定数をそのままというのはおかしい。でありますから市民のための、市民による政治をやってもらいたいというのが本心であります。去るものの考え方として発言しておきます。

○松久保委員 議員定数に関しては、私は前回現状のままということで発言しましたが、今回は18名が妥当だと思います。以上です。

○加治佐委員 現状でいいと思うんですが、これだけ人口が減ってくれば、当然減らすべきではないかということで、今の気持ちとしてはどちらとも言えないという気持ちでございます。

○吉永委員 自分はもう前回から議員定数の減を言っております。先ほど来皆さんからの御意見と一緒にいうか、似たような感じになるんですが、当然人口減少に伴い、税収も減って

くるし、先ほど蔵元議員からありました8年後庁舎が建つ、人口減少、減ってくるという市民の方からの意見の中で、やはり定数の見直しというのはもうせざるを得ないという部分では、数云々というのはもう皆さんで議論する中で、自分の中では16と考えているんですが、ここは協議しながら、報酬はまた別な形でいろんな協議が必要かと思いますので、まずはやはり定数の見直しをするかしないかをしっかりここで協議をした上で、人口割という数は確かにありますが、委員会構成等を考えれば常任委員会2委員会で特別委員会を当初予算も決算も特別委員会で運営できている自治体もありますので、そういったところを調査研究しながら、本市の課題にあった議員定数を見いだすべきだと私は思っています。以上です。

○山下議長 最後ですので、19名の御意見も聞いて、それもあり、これもありというふうに非常に悩むところではありますけれども、皆さんがおっしゃる財政上の理由それから、人口の減少ということも考えれば、過去見送った経緯はありますけれども、やはり減というのは妥当じゃないかなと思います。先ほど浜田議員が言われましたけれど18名というのは委員会構成をこの現状の3つのままの委員会がやはり望ましいのではということで18名が妥当ではないかと思います。それとその市民アンケートをとったらどうかという意見もありましたけれども、平成26年には市民との意見交換会というのをたまたまやりましたので、そこでこの議員定数についてのアンケートというのをとっているんです。平成30年にやはりこの議員の話合いの中で、やはりアンケートをとったらどうかという意見もあったんですけども、市民との関係性がやはり希薄だったりすると、感情の勢いで今のやはり市民の皆さんは議員というものに対しては公務員というふうな形で見られて、報酬ですけれども収入も安定をされていてちょっとうらやましがられているというか、そういうふうな目で見られているふしが非常に多いような気がするんです。そういったその感情からすれば、もう現状はよくわからないながらも議員を減らせ、減らせというのはよくあちこちで聞かれます。やはり私たちは議会人ですので、市民全体の代表ということで、人口は減りますが面積は変わらないということなども考えれば、1度にだーっと減らすというのは非常に難しいと思いますけれども、18名が妥当かなというふうには思います。以上です。

○西委員長 はい。皆さんの一人一人の今のお気持ちを聞いたところですが、自分の考えと、また今ありました人の話を聞けば、そういう考え方もあるんだなあと思いながら、私も聞かせていただきました。今の現状でいくとやっぱり18名ぐらいに減らしたほうがいいんじゃないかという方が多かったようでございます。それともし減らした場合に、報酬を上げてなり手を確保しようというのは、もうそういうのはもってのほかだという御意見もございました。それはナンセンスだという御意見もございましたので、そういう意見を自分で再度確認していただきたいと思いますが、下のほうに議員報酬の見直しということも書いてございます。減らしたから議員報酬を増やして、なり手を確保しようというのはどうなのかなという御意見が多かったようでございます。ただこの中の議員報酬でいきますと、ただ政務活動費というのはできないのかという御意見があったというのはここに書いてございますので、また今後の議題の中にしていけたらと思います。定数ですのでやっぱりこのように議員間で討議をしながら、やっぱりこうだよと、また持ち帰って次回のときにいろいろな今日の意見を聞いて、やっぱりこうあるべきでないかとか、そこらも考えていただければというふうには思いますが、今日の中ではやっぱり減らすべきではないか。例えば人口減少、そして近隣市との

比較、そういうのを考えると、前回も 20 名で持ち越して、そのままいくのはどうかなという御意見もございましたので、そこを考えながらこの問題については今日で結論ということではございませんので、また次回のときに意見を互い出し合いながら、どうあるべきかということ話を話し合っていければというふうに思います。御意見をいただきましたけど、このことで皆さん、何かほかに御意見はございませんか。

○吉永委員 今のそれぞれの意見の中で市民の声をやはりどこかで拾うというのはなかなかコロナ禍で、先ほどありました議員との意見交換会はなかなか開けない状況の中で、アンケートをとるのは厳しい状況ですよね。それで議会だよりの一覧に意見を下さいということで、市報にあります市長に御意見くださいみたいな形をとっているやり方で意見をもう今で取るような形の欄が作れば、どういったアンケート内容ですかとか、いつしますかとするよりも、いつでも自由に声を聞ける場所というのをこちらから発信すれば、そこに何人がいいかというわけではなくて、定数を、こういう協議を特別委員会設置しているわけなので、そこで意見を聞くというのは、僕は必要なと思います。以上です。

○西委員長 吉永委員から提案がありました。その中で議会広報編集委員会の委員長としてはそういうスペースがございますか。今、現時点では。

○菊永委員 議会報というような形で今、吉永議員が言われたのかなあというようなふうに思っていますけれども、もう議会報は 1 回目の校正を印刷会社に出してしまっていて、広報委員長が私のとなりにいますけれども、スペースというところについてはもう全部埋まっています。今回はちょっと無理というようなことで、それで私が感じたのが今、広報紙でというようなことであればどうなのかな、議員のことだから南九州市の広報紙でそういうのができるのかどうかということです。広報紙は毎月 1 回発行をしていますので、市長に意見を述べるというスペース等もありますよね。だからそういうのは活用できるのかどうかその辺が 1 番市民の皆さんに聞くということについてはいいんじゃないかなというふうにも感じていますけれども、さきに吉永議員が言ったように、特別委員会の定数をどうするのかということ先決めて進んでいくんじゃないかというようなこともあったようですけれども、今日は 2 回目の皆さんのそれぞれの意見を聞きながらということですので、次回にまた持ち越してしっかりと協議をしていけばいいんじゃないかなというふうに思っているところです。以上です。

○川畑委員 つけ加えて広報委員会のほうですけど、今回の 58 号ではもう校正を済ませて出していますので、6 月で出さないと、これに載せるのであれば 6 月の議会の報告、議会だよりで出していないといけないということになってくるかなと思います。

○西委員長 わかりました。ちょっとその前にできたら、このアンケートという御意見が出たんですよね。アンケートをとったほうがいい。もうとらんでもいい。自分たちで決めればいい、そういう御意見もあるのかなと思ったりもして。

○今吉委員 今、アンケート云々の話が出ていますけれども、議員個人それぞれやっぱり議会議員活動しているわけですから、その中でこういうふうな話があるんだと、どう思うとか、なぜ現状のままでいいと思うか、そういうのをすべきであって、わざわざ市民にアンケートをとる云々じゃなくて、日頃の議員活動の中で議員本人が確認というか、したほうがいいのかではないですか。そのほうがいいと私は思います。

○西委員長 今吉議員からもありましたが、アンケートをとったほうがいいんじゃないとか、こういうのは通常活動の中で、議員活動の中でやっぱり市民の意見を聞けるんじゃないかという御意見ですが、そこらについてもうちょっと皆さんの御意見を伺いたいと思います。

○川畑委員 前回のこの定数委員会のときもアンケートをとるか取らないかというようなことも出たんですけども、そのときにもやはりアンケートをとった場合、その結果に左右され、我々が左右されてしまうということからも、やはりアンケートよりもそれぞれの議員活動の中で市民の意見を吸い上げていくというようなことがいいんじゃないかというようなことで、私もそう考えております。以上です。

○竹迫委員 私もアンケートをどうして取るのか。これは難しいと思います。ただ何人にしますかと、何人がいいですかと。そのくらいしかできないのかなと思います。先ほども出ましたが、我々は市民の声を聞いているわけです。皆さん。今までもいろんなのを。ですから議員活動の中でそういう声があるんだったら、そういう市民の声を尊重してするのか。それとも、議会として中身がわかっているからそこで判断するのか。それはもうそれぞれの議員によるとと思います。どうしても何かそのアンケートでもというのであれば、議会だよりなんかも見ていない人が多いですよ。本当見てない。ということになりますと仮です。私はアンケートは難しいと、あまり賛成じゃないですけど、やるのであれば1枚紙で市の広報なんかと一緒に1枚紙で配ったほうが目につくと思います。以上です。

○吉永委員 そのアンケートを先ほど川畑委員がありましたが、する、しないの部分は前回もいろいろ協議、議論したと思うんです。僕が先ほど申し上げたのは、やはり市民の方の意見というのは当然、議会活動でも聞いた中で、ほかの方というのは全部を吸い上げきれない部分ですけど、やはり市民がどれだけ議会を見ているか、見てないか、竹迫議員が言われたとおり議会だよりを出していても見てない人も多いという部分もありますけど、自分の周りには見たよ、今回は誰々がとか、一般質問が多かったねとかやっぱりそういう意見の方もいらっしゃいます。僕は言いたいのは意見を吸い上げる場所というのはやはりこちらから情報発信した中で、人数を聞くわけじゃなくて、どう思っているのかというのを僕は拾ったほうがいいという意見を先ほど申し上げたんです。なので1枚紙で臨時号でも出せると思うんですよ。今回スペースがなければ、特別委員会を設置しましたので、市民の方のいろんな御意見を、議員の方もしくは市のホームページでも、議会のホームページもありますので、そちらに御意見をくださいとか、そういったやり方というのはいくらでもあると思いますので、まずはそういったことをしたらどうかという提案です。以上です。

○日置委員 申し訳ありません。アンケートをとったほうがいいと提案していただいた方がどなたでどういう理由だったかをちゃんと理解できていなくて、どなたがおっしゃってどういう理由だったかを再度御説明いただけないでしょうか。そこがスタート地点なんですけど、私はスタート地点に立てていませんでした。誰が提案してどうしてという理由だったんですか。そこがわかんないです。副議長が提案されたんですか。アンケートというのは。

○吉永委員 僕は最初に言ったのは、皆さんの意見の中で前回もこういった話があってアンケートなりとって市民の方の意見をというのは1人1人に最初聞きましたよね。その中で出たので、僕は意見としてこういうやり方はどうですかと、アンケートでなくて、そういう意見を拾い上げる場を作ったら議会広報だよりでも、そういう手段としてありますよねと。こ

れを今回間に合う、間に合わないは別として9月なのか12月なのか出す、出さないはまた自分たちの委員会だと思うんですけど、皆さんのそれぞれの考え方もありますし、僕はこれをしてくださいと言っているんじゃないくて、やはりこういったことが大事じゃないかなというのは1つの提案ということで述べたわけです。以上です。

○日置委員 だとすれば私は他市の事例を調査するところから始めるべきだと思います。自分なりに論点を整理すると、このことについて市民の方々の意見を聞かないといけない。これについては全員一致だと思うんですが、委員会として聞くのか。それとも個々の議員が聞いてきたものをここに持ち寄るのかという方法論の話があって、まずそこで1つ分かれ道になっていると思います。私はそこは委員会として聞くべきだと思っています。委員会としての聞き方として広報紙に載せるという方法も、議会だよりか市民だよりとかはともかく。例えば他市の事例でいうと枕崎市も今、定数等調査特別委員会やっているんですが、無作為抽出の2千名でアンケートを確かとっているはずですよ。2千名だったかな。とにかく予算組んでアンケートをとっているんですよ。私が今言っているのはとったほうがいいということではなくて、とった結果が、何が起きているのかというのがそこから学ぶことができるし、そういった多様な手段を検討した上で選択していくためにこの調査委員会があるんだと思うんです。なのでここでどうするというよりは、また次回があるわけですから、他市の事例等を調べた上で市民の意見を1つ目として個人で吸い上げて持ってくるのか、委員会としてやるのか、次に委員会としてやるんだったらどういう手段が他市ではどういうことやっているのかという情報をちゃんと共有した上で判断するべきだと思います。以上です。

○西委員長 いろいろ意見が出ました。前は確か通らなかったのかなと思っております。今、議長も言われたように市民との語る会でそういう話はしたかなあと思いますが、アンケートをとるべきだ、とってもいいんじゃないかという意見もありましたが、市民の意見はもう通常の議員活動の中で意見を聞いているはずだという御意見等もございましたので、それを考慮して、また次回でいいですか。皆さんどうですか。

○蔵元委員 市民の皆さんがどういうふうに議会を見ているかというのを知るためには、今、多分市民の人たちは「うちの議会何人いるんですか。」と、「20」とぱっと答えられる人は多分半分もいないです。それなのに多いですか、少ないですかと聞いても、これは元も子もないわけですよ。なのでアンケートというか、我々の今、議員は何名います。報酬はいくらもらっています。議会活動は定例会とかそういうのが年間何日出るんです。というようなそれに対してどう思いますかというような市民の方の議会に対する思いみたいなのを吸い上げる。数をどうと言ってしまうと、なかなかこれはこう言ったのに議会は聞いてないじゃないのというふうになっちゃうので、今、皆さん方はどう思っておられるのか。議会というのを知る意味でのアンケートの作り方だったらやっていいのかなと、数を聞くアンケートはしないほうがいいと私は思っています。

○西委員長 いい意見かなと思います。

○竹迫委員 そのアンケートも尊重するのか。参考にさせてもらいますのか。そこら辺をきちっと示してやらないといけないと思います。尊重しますというと、アンケートのとおり動かないといけないですよ。と私は思います。それと定数等ですから、議員報酬も絡んでくるわけですが、今の我々の議員の報酬で確定申告でもらったものとすると、平均で4百4、

50万ですか。ありますよね。これを例えば農家さんですね、家族2人とか、3人とか、4人とかいいですよ。我々は純利益ですよ。報酬は。そういうこと等からしますと安いのか。ということだと思います。私は安くはないと思っている。今の南九州市のいろんな事業所とかそういうところに勤めている人たちですね。そういうことで私先ほど言いましたように、その数を減らしたから報酬を上げましょうと、そういうことで絶対やるべきでないと。南九州市がどうかということ考えた場合に、そういうことをもって発言しているんです。以上です。

○西委員長 今、御意見がありました。アンケートもその議員活動全てを載せてアンケートをとる。その中で定数の現状を訴える。あるいは議会が年4回、あるいはその他の活動等も入れてアンケートをとったらと。竹迫委員からは、やっぱりアンケートをとるんだったら、前もってそのアンケートに従う、あるいは参考にさせていただくという文言を入れるべきではないかという御意見でしたが、今日は簡単にはもうまとまらんと思うんですが、そういうのを参考にちょっとどうですか。今、蔵元委員あるいは竹迫委員からあったようなアンケートのひな形を作ってもいいと思われる方がいいですか。もう要らないんじゃないかと、先ほど意見があった通常活動の中でいいんじゃないかという意見もございましたが、どうでしょうか。

○大倉野(由)委員 蔵元議員の御意見をお聞きしてですね。やっぱり議会の役割という点では、議会制民主主義を我々がどれだけこの努力ができていくかというのが1番の問題だろうと思うんですけども、だからそういった意味では、市政に対してのいろんな意見が、いろんな立場でいろいろございます。年齢も違う。いろんな形の構成体の自治体ですので、幅広くやっぱりこの意見が反映をされているかどうかという点で、そういった意味では私たち自身がこの議員活動として、やっぱり十分なのかなというのを知る意味でも蔵元議員がおっしゃった形のアンケートというのはいいいんじゃないかなと、特にそれこそ市民の皆さんの御意見というのは、聞く機会私たち自身が本当にないといけないと思うんですけども、自分のことを振り返って、なかなか具体的にやっぱり不十分というか、十分そうになってないという反省もしますけども、いろんな形でやっぱりこう皆さんの意見が反映をされる。そういう市の在り方が大事なかと。議会としてはなおさらそういうのを思います。定数をその数をただ言ったところで、それこそ例えば議員さんのいない地域、川辺でもいろいろございます。議員がいればいんだけどというふうな声なんかがやっぱり具体的に聞こえてくるんですよ。だからいろんな思いがそれぞれあると思いますので、ただ数だけをこのアンケートと、それは下手な話じゃないかなというふうに思いますので、やっぱり議会活動に対しての御意見を率直に皆さんから聞くという姿勢が大事じゃないかと思います。

○菊永委員 アンケート等については先ほどの前の特別委員会の際にもいろいろと出ているようであります。今吉議員からもありましたように、せつかくは議会として特別委員会を設置した、自分たちでしっかりと協議をしてというようなことを考えていけば、特に市民の方々に、もう市民の声として出ていることはそれぞれお伺いをしているというふうに感じているところであります。そのことを考えてみれば、もうアンケートでなくて自分たちでしっかりと協議をして決めていったほうがいいのかというふうに思っています。アンケートは必要ないのじゃないかなというふうに思っています。以上です。

○竹迫委員 私もですね。基本的には先ほども言いましたが、それを尊重するのか。そのと

おりにしますとか。参考にしますとか。そこは明記しないといけないと思います。それとこれは定数等特別委員会ですから、定数をどう思いますかと、これを聞かないわけにいかんでしょ。そういうこと等を考えると我々が議員活動をしてみて、そしてこれでいいんじゃないかとかいうことは、私は自ら、議会自ら判断してもいいと思います。そして、その結果は次の選挙で洗礼を受けるわけですから、それは甘んじて受けたらいいんじゃないですか。もうアンケートとかそういうのは出てきたもののどこを取るのか。出てくる前に決めておかないといけない。どうしますという事を。私はそういうこと等からしてアンケートとかそういうのをとる必要はないと。以上です。

○西委員長 そういふ必要がないという御意見もございました。全体的な議員活動についてアンケートというのか意見を聞くとか、そういう考え方もあるのかなと思いますが、今日はもう結論は、アンケートそのものについてはどうですか。皆さんもう取る必要ないと思いますか。

○吉永委員 これは調査特別委員会ですよ。だから調査すべきですよ。だからいろんなやり方というのはこれで議員活動もないし、やっているところもあるんじゃないじゃなくて自分たちの議会で決めることですので、それは確かに数を決めないといけない部分ですよ。自分が先ほど申し上げたのは人数を聞くんじゃないで、どう思っているかというのをやはり聞くべきだっていうところを最初に戻ってほしいんですよ。定数の見直しをやりましょうということで、他市を言えば請願、陳情が出てからやっているところもありますし、それ以前にこちらからするわけだから、自分たちで調査するわけですから、やはりアンケートを無作為でやっているところがあれば、今回決めるんじゃないでこういったやり方がありますよねというのもしっかり調査した上で判断すべきだと僕は思っています。以上です。

○西委員長 ちょっと時間も大分過ぎましたので、このアンケートだけ、例えばアンケートというのが意見を聞くという言い方なのか、どっちがいいのかわかりませんが、もう、採決でアンケートをとったほうがいいとか、もう必要ないんじゃないかということで、両方でもアンケートをとらせてもらっていいですか。

○日置委員 いや何度も申し上げますけど、アンケートをとったほうがいいか。取ったほうがよくないかということは、せっかく調査委員会なんですから、アンケートをとった議会ではこういうことが起きて問題になった。もしくはこういうメリットがあったということもあるだろうし、取らないでうまく進めた事例もあるだろうし、今私たちのここにある知識だけで判断するということに対しての私は怖さがある、例えば第1回でアンケートが仮に取らないと決めたとして、私はとったほうがいいと思っているんですけど。取らないと決めてみたとして、近隣の枕崎がとっているわけで、それですごく枕崎市民からの支持もあって、枕崎市議会の信頼が得られているみたいな話が後からわかったとしても、時既に遅しなんだろうんです。もううちが決めちゃったんだったら、だから、ここは議論する場でもあり、調査する場でもあるので、アンケートをしたほうがいいかよくないかとか、市民の声をどう聞くべきかということが意見として出ているんだったら、調査した上で決めたほうがいいと思います。でも、多数決ですからもうこの場で即決となったら従いますけど、でも調査委員会なので、私は今決めるということではないのかなとは思っています。だって時間あるので、また来月やればいいわけですよ。

○西委員長 はい。そういう御意見もあります。ただこれをずっと長引かせるわけにはいかないですね。というのは、もしアンケートなり意見を聞くとすると、時間がかかるわけですね。ですからもうできれば先ほど2択だったんですね。かねての活動で十分意見聞いているでしょうかと。もう一つはやっぱりこの特別委員会を開いてやっている。せっかくだから、議員がかねての議員活動も市民にさせていただく意味ではとったほうがいいんじゃないかという御意見もあったわけです。というのは私個人的に言われると、市民と語る会もここコロナでできてないわけですので、どうなのかなあと思ったりもしているんですが、日置委員の意見もありましたが、どうですか皆さん、アンケートの関係については早く決めたほうが、取る、取らないはもう多数決でいって、もうそんなに個人的には支障はないと思うんですね。今、竹迫委員が言われたように参考にさせていただくというぐらいは記載してもいいのかなと思ひながらですが、そういうのを考慮しながらどうですか。

○内園副委員長 調査しているところがあるのか。ないのか。そして調査した結果どうなのかということ、一応、私たちが調査してみて、それを皆さんに出すのはどうなんだろうかと思います。

○大倉野(忠)委員 すいません。私はアンケートがいいのか悪いのかもまだ今判断がつかない状況です。そのアンケート自体が参考になるのかならないのかも今の時点ではわからない状態です。もう少し材料があってアンケートしたほうがいい。あるいはしなくてもいいということがわからないと、今日決をとっても恐らくその判断ができないので、アンケートをするというふうには私はなりませんので、今回、決めなくても次回でもいいんじゃないでしょうか。

○西委員長 アンケートを取って、その結果がどうだったとかというのがあるのかないのかという御意見もありました。今そうすると3択になってしまったんですね。そうすると、今日決められないのであれば、25日が臨時議会があるんですが、そのあとでもう1回開催してよろしいですか。いろいろ今日は持ち帰って、皆さん御意見を聞きながら、あるいはちょっと事務局もこんなのがあるのか調査できますか。

○川崎書記 いろんなことの情報を知るということは大事ですので、日置議員等が言われた、その内容については事務局のほうも調べますけど、各委員の方もやっぱり私たちの調査というのが完璧なものであるわけじゃありませんので、議員の方たちでそういう形のアンケートをとってどうだったというのもまた事務局のほうに教えていただいた上で、こちらのほうもいろいろ調べながら、それらの情報があるということは大事なことです、そのような形で進められたらいいと思うところです。

○西委員長 そういう今御意見がございましたので、もう1回それまでに皆さんも調査していただければ、事務局もちょっと当たっていただいて、25日にアンケート関係を協議したいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

【「はい」という声あり】

○川崎書記 25日に開催ということになりましたので、アンケートのことについては、その以前に、事務局のほうに知った情報がありましたら教えていただければと思います。以上です。

○西委員長 はい。ということで、ほかにないですか。

〔「なし」という声あり〕

○加治佐委員 これ25日の決定なんですよ。

○西委員長 25日にもうやりましょうということですので。

○加治佐委員 日程でもう本会議があるんですかということです。

○樋渡事務局長 25日の臨時会は決定です。その全協が20日ということになります。

○日置委員 今日、個人的には論点整理が大事だと思っていて、この配っていただいた議会活性化についてという文書で4つの項目がありますが、委員会開くときに等を入れるのか、入れないのかでちょっとあったんですよ。等を入れているからやろうと思えば4つともやれるんですが、この委員会の射程の範囲としては多分この下の2つはそうだろうと。残り2つ、特に1つ目の常任委員会の構成見直し微妙なところもあると思っていて、残り2つも、この委員会として扱うのか扱わないのかというところについての確認がとりたいです。

○西委員長 はい。これの上の2つの件については、またこれは定数のところに入るのか、入れられるかということでは、もう全協の中でされたほうが僕はいいような気がします。どうなんだろうかね。これについては次回でもいいですか。

○日置委員 はい。

○西委員長 これについてはまた議運でも揉んで、どこで検討するのかというのは次回のところでまでに話をさしていただきたいと思います。

○西委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」という声あり〕

○西委員長 ないようですので、第2回目の調査特別委員会は終了したいと思います。御苦労さんでした。

(閉会 11:10)